

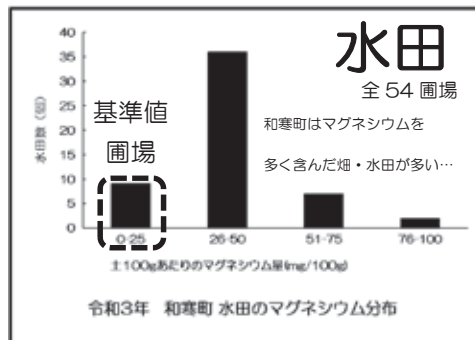
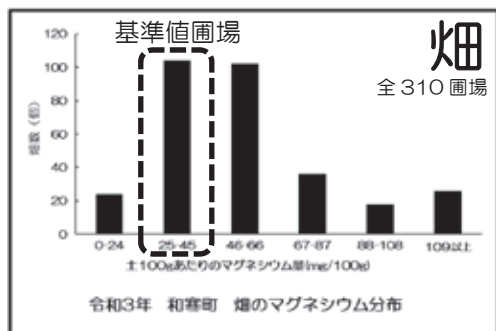
和寒町農業活性化センターからのお知らせ

—マグネシウム（苦土）について—

マグネシウムは肥料の3要素である窒素、リン酸、カリに次いで大切な栄養分の1つです。肥料用語でマグネシウムは、苦土と呼ばれます。マグネシウムは私たちの生活で身近なもので、豆腐を固める時の「にがり」の成分としても知られています。作物にとってマグネシウムは、光合成に大切な栄養分です。作物のマグネシウム欠乏は、葉が白や黄色になり、下の葉から現れます。葉全体の色が変わりますが、葉脈には緑色が残ります。この要因は、土の酸性化、肥料養分が風雨により流れ出たこと、有機物不足、またはカリ肥料の過剰施用によるマグネシウムの吸収阻害などが考えられます。

土の中のマグネシウムは、当センターの土壌診断の結果に示されています。マグネシウムの土壌診断基準値は、水田では土の中に0～25mg/100gです。25mg/100gを超えると、肥料は必要ありません。

畑作物と園芸作物は、土の中の基準値が25～45mg/100gです。肥料の標準施用量については、キャベツ・カボチャは2～3kg/10a、畑作物では3～4kg/10aです。土にマグネシウムが45mg/100gを超えると肥料は必要ありません。25mg/100g以下の場合、標準量の30～50%増しの5kg/10a前後です。例えば、肥料「硫酸マグネシウム（水溶性マグネシウムを含む）」では、マグネシウムが全体の25%含まれているので、20kg/10a施用した場合は、成分量でマグネシウムを5kg/10aを散布した計算になります。



和寒町の畑や水田は、マグネシウムの基準上限を超えることが多く、肥料が必要ないのが特徴です。この理由として、ペオツペ川上流にはマグネシウムを多く含んだ岩石が存在しているためです。さらに三笠山自然公園には、多くマグネシウムを含んだ岩石の採石場跡地が、「憩いの池」となっています。この多くマグネシウムを含んだ岩石が風雨にさらされることにより、マグネシウムの多い肥沃な和寒盆地ができたと思われます。しかし、マグネシウムが不足している畑や水田もあります。

ぜひ当センターに畑・水田の土を持ち込んでいただいて、土壌診断をご利用ください。

【和寒町農業活性化センター 農業専門支援員 横井 義雄 技師 大村 洸平】

お問い合わせは 和寒町農業活性化センター（TEL32-2010）まで

自治会長の会議を開催しました

自治会長（行政委員）会議を4月22日に開催し、地域に関する行政事項などの意見交換を行いました。その後、和寒町自治会連合会の総会が行われ、今年1年の活動の確認をしました。

自治会	自治会長	自治会	自治会長
恵みヶ丘	○加藤 憲行	松岡・北原	◎丹羽 隆
大通	古川 一志	東山	竹本 達也
西町	浜田 友子	中和	金谷 浩幸
仲町	広富 之緒	三笠南	今野 宗徳
若草	安孫子敏己	三和・菊野	前田 重雄
かたくり	中澤 由男	西和福原	井上 保幸

◎自治会連合会会長 ○同副会長 （敬称略）



写真は和寒町自治会連合会総会